

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

研究課題名：神戸市域におけるキリスト教関係史料の整理と観光活用

研究期間：2024年11月～2026年3月

交付決定額(研究期間全体)：2,000千円

申請区分：大学研究者提案型
課題番号：A24109

研究代表者：神戸大学 大学院国際文化学研究科
准教授 衣笠 太朗

1. 研究成果の概要

研究活動の構造と概要

①神戸ユニオン教会での
史資料整理・調査

(A)史料群のスキャ
ンと写真撮影

(B)史料群の保存作業

分析と成果
次ページ参照



実際の活動

(A) 2025年2月の一斉スキャン作業：

ドイツ語史料のスキャン完了

(B) 2024年4月から2026年2月までの毎月一
回日曜日に保存作業を実施：

2026年2月に作業完了

実際の史資料整理の様子

(A)一斉スキャン作業



(B)史料保存作業



1. 研究成果の概要

阪神ドイツ文学会 第245回研究発表会 シンポジウム

ユニオン教会と神戸 史料から紐解くドイツ系コミュニティの歴史

神戸ユニオン教会は、居留地・生田町・長峰台を拠点として神戸市域にまたがる活動を行い、英語圏とドイツ語圏出身のプロテスタントの宗教生活の中核を担ってきた。同教会において、神戸市域における欧米系コミュニティ研究会は、2022年度より史料整理・調査事業を実施している。本研究会は教会の所蔵史料を整理し、かつ学術的に分析しようとしているが、本シンポジウムは、そうした活動についての初の発表と議論の場である。

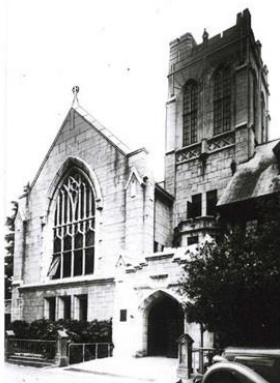
- 司会：大津留 厚（神戸大学名誉教授）
- 報告：衣笠 太郎（神戸大学講師）
井上 舞（神戸大学特命講師）
林 祐一郎（京都大学大学院博士後期課程）
中村 綾乃（大阪大学准教授）
アンドレアス・ルスターホルツ（関西学院大学教授）
- 日時：2024年12月1日（日）14時～17時25分頃
（13時30分開場）
- 場所：立命館いばらきフューチャープラザ
1F カンファレンスホール

詳細は阪神ドイツ文学会
公式ブログをご覧ください。
<https://hsgm.exblog.jp/>



<お願い>

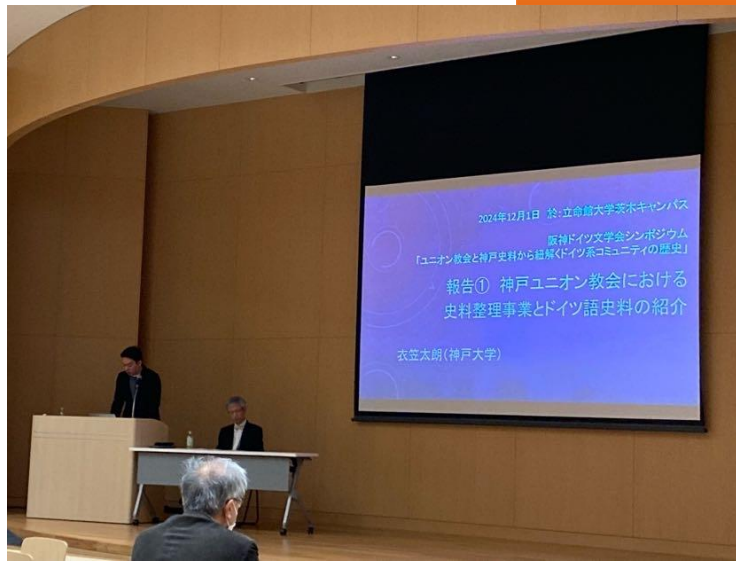
- ・専用の駐車場・駐輪場はございません。ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
- ・キャンパス内は全面禁煙です。キャンパス周辺での喫煙もご遠慮ください。
- ・ホール客席内は飲食禁止です。（ペットボトルのお水、お茶は可）
- ・消防法の定めにより、定員に達した場合はご入場いただけません。ご了承ください。



②学術 シンポジウム

- ・開催日：2024年12月1日 於：立命館いばらきフューチャープラザ 1階カンファレンスホール
- ・神戸ユニオン教会での史料整理・調査事業について学術的な報告を行う最初の企画。①本事業の成立から現在に至るまでの過程と所蔵されているドイツ語史料の紹介、②専門的見地からの史料保存の方法、③明治期から20世紀初頭までのドイツによる日本でのプロテスタント伝道、④1930年代以降の神戸ユニオン教会、⑤ナチ期の神戸ユニオン教会というトピックで、事業従事メンバーが報告を行った。

シンポジウムの様子



1. 研究成果の概要

③ ドイツ・中欧 での史料調査

- ・ 実施期間：2025年8月1日～9月5日
- ・ ドイツを中心とした中央ヨーロッパでの史料調査を実施した。具体的には、林祐一郎、森本恵一、西崎明美の3名が渡欧し、現地の図書館・文書館（バイエルン国立図書館、在東アジア・ドイツ人生活研究協会、ベルリン国立図書館など）での調査に従事した。

史料調査の様子



1. 研究成果の概要

④ガイドツアー(1)

- 実施期間：2025年6月28日 於：三ノ宮周辺
- 建築史家の川島智生氏をガイド役として招聘し、三ノ宮周辺の重要建築をめぐるガイドツアーを実施した。フロインドリーブ生田本店（旧神戸ユニオン教会）、異人館街の歴史的建造物、神戸聖ミカエル教会などをガイド付きで見学した。関西圏からの参加者が多かった。

⑤ガイドツアー(2)

- 実施期間：2026年2月28日～3月1日 於：三ノ宮周辺および神戸大学六甲台第一キャンパス
- 同じく川島智生氏のガイド。初日は、三ノ宮周辺で坂井家住宅、風見鶏の館、神戸バプテスト教会などを見学した。2日目は、神戸大学にて本館貴賓室、兼松記念館、社会科学系図書館を内部見学した。関西圏外からの参加者が多く、彼らは神戸でのホテル泊を行った。



ガイドツアーの様子





1. 研究成果の概要

公開講座「神戸の欧米系コミュニティと神戸ユニオン教会」

日時：2026年3月1日（日）10時-12時

会場：神戸大学六甲台第1キャンパス 経済学研究科 本館 232 教室

会場収容人数：200 人程度（飛び入り参加歓迎です！）

概要

神戸港開港まもない19世紀後半に誕生した「神戸ユニオン教会」は、米国、英国、ドイツと多様なルーツを持つ人々が集う場でした。ヴォーリズ建築で知られる現フロインドリーブ本店（旧教会堂＝背景写真）をはじめ、神戸の街には今も教会ゆかりの場所が数多く残っています。本講座では6名の講師から6つのテーマでユニオン教会と神戸の欧米系コミュニティの軌跡を辿ります。

講師紹介

大津留 厚 氏 「神戸ユニオン教会とハプスブルク捕虜兵」

神戸大学名誉教授。ハプスブルク近代史、青野ヶ原捕虜収容所の歴史が専門。

林 祐一郎 氏 「関西におけるドイツ系宣教師の活動」

京都大学大学院文学研究科・博士後期課程。近代ドイツ史が専門。

井上 舞 氏 「神戸ユニオン教会と史料保存」

人文学研究科地域連携センター・特命講師。神戸ユニオン教会の史料保存事業に従事。

川島 智生 氏 「建築から見る神戸の観光史」

神戸情報大学院大学客員教授。一級建築士。建築史が専門。

森本 恵一 氏 「神戸の教会とオルガン」

大阪大学大学院人文科学研究科・博士後期課程。オルガン奏者、日本のオルガン受容史が専門。

衣笠 太郎 氏 概要説明・「神戸のドイツ系コミュニティ」

神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授。「神戸市域における欧米系コミュニティ研究会」主宰。

参加費無料・事前申し込み不要

お問い合わせ 神戸大学大学院国際文化研究科 衣笠太郎（主催者代表）

E-mail tkinugasa@harbor.kobe-u.ac.jp

主催：神戸市域における欧米系コミュニティ研究会 共催：神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート
本事業は神戸市から研究助成（「大学発アーバンイノベーション神戸」）を受けて開催いたします。

⑦公開講座

- 開催日：2026年3月1日
- ドイツを中心とした中央ヨーロッパでの史料調査を実施した。具体的には、林祐一郎、森本恵一、西崎明美の3名が渡欧し、現地の図書館・文書館（バイエルン国立図書館、在東アジア・ドイツ人生活研究協会、ベルリン国立図書館など）での調査に従事した。

公開講座の様子



2. 研究成果の学術的意義や社会的意義

(A) 神戸の欧米系コミュニティに関する歴史研究の進展

- 一次史料および二次文献を用いた神戸ユニオン教会の成立と展開の調査により、神戸市域における欧米系コミュニティの形成過程
- 1870年代から1940年代における、神戸ユニオン教会創設およびそこを拠点としたプロテスタント聖職者および信徒の動向
- 上記2点の解明の進展により、今後の史資料整理・調査事業に向けた重要な基礎研究に寄与

(B) 神戸ユニオン教会の史料群の利用可能性向上

- ドイツ研究と史資料整理の専門家から構成されたチームによるドイツ語史料の目録化を実施。すべてのドイツ語史料の内容を確認後、各ファイルに記載の史料の基礎情報（表題、作成年、形態など）をエクセルファイルに入力。57のファイルからなるドイツ語史料について、基礎情報および詳細な目次の目録化を完了。
- ドイツ語史料について、全ファイルのスキャンとデジタル化を実施、完了した。

(C) 観光資源としての活用可能性向上

- 「神戸2025ビジョン」の基本目標3 多様な文化・芸術・魅力づくり
- 従来は情報が積極的に公開されなかった神戸ユニオン教会の歴史の解明により、神戸における欧米系プロテスタント住民をめぐる記憶と文化を、当事者とその子孫またその他の市民と共有することが可能になる。明石町の最初の教会堂や生田町の旧教会堂（現フロインドリーブ本店）に関する史料と記憶の歴史化は、国際都市神戸の文化の保存および発信を見据える上でも重要。
- 「神戸2025ビジョン」の基本目標7 多様な市民の参画による地域コミュニティの活性化
- 神戸ユニオン教会による積極的な支援および信徒の整理事業参画は、同教会をめぐる記憶と議論が活性化に寄与している。特に企画展には、信徒以外の住民を含めて多数の市民が観覧に訪れ、教会の歴史に対する関心を喚起した。



3. 研究開始当初の背景

(1) 神戸をめぐる課題

- 神戸をめぐる課題のひとつは、開港以来のキリスト教圏出身者から構成されるコミュニティに関する歴史研究の不十分さ、またそれを基礎とした観光資源としての活用不足が挙げられる。

(2) 神戸ユニオン教会の史料群の重要性

- ユニオン教会所蔵の史料群の整理・分析とその成果公表が巨大なインパクトとなりうる。この教会には、神戸におけるキリスト教圏出身者のコミュニティ形成・維持の過程を知るうえで第一級の史料が膨大に所蔵されている。それらを分析し、論文やシンポジウムなどでその成果を発表することで、神戸市域に関する地域史を大幅に更新することが期待される。とりわけ、「欧米を中心としたキリスト教圏出身者が神戸でどのような歴史を歩んだのか」が明らかになることは、多様性にあふれた魅力ある「多文化都市神戸」のさらなる実態形成に貢献するものである。この点は「神戸2025ビジョン」の基本目標3に合致する。

(3) 史料群の学術的な利用や観光資源としての活用

- 「神戸2025ビジョン」の基本目標7に関連して、観光産業への貢献も重要である。すでに過年度事業では、神戸大学にて企画展を実施したが、それは300名を超える来場者を記録するなど成功をおさめた（報告書参照）。今次計画においては、現フロインドリーブ（旧会堂）での追加の企画展、市民を対象とした公開講座、研究成果に依拠したガイドツアーなど、「多文化都市神戸」の特色をより前面に押し出した事業展開を構想している。そうした観光関連事業を展開する際には、先行事例として、神戸に類似した国際都市である長崎市を対象とした観光学による豊富な人文社会の諸研究を参照する。

4. 研究の目的

本事業の目的

- 本事業の目的は、神戸市域におけるキリスト教史の展開を史料に基づいて実証的に整理・分析し、それを神戸の観光事業の拡大に活用することにある。

神戸ユニオン教会の中心性

- 申請書にて課題としては以下の4点があり、それに沿う形で本事業を実施した。①整理・調査事業の深化、②研究成果のさらなる公開、③国内外での追加調査や展示会の実施、④国外の研究組織との連携。

5. 研究の方法

主たる活動

- 神戸ユニオン教会での史資料の整理・目録作成・電子化
- 膨大な史料の整理および目録作成には多くの人員が必要となる。協力研究者としては、神戸大学名誉教授の大津留厚（ハプスブルク近代史）、大阪大学准教授の中村綾乃（ドイツ＝東アジア関係史）、神戸大学特命講師の井上舞（史料整理の専門家）が参画する。また以下の大学院生・ポスドクが整理事業に参加した：林祐一郎（京都大学）、中辻柚珠（現立教大学）、森本恵一（大阪大学）、西崎明美（神戸大学）、河合竜太（現駒沢大学）

活動概要

- 月に1回程度、その都度動員可能な人員で神戸ユニオン教会を訪問し、作業を実施する。
- 1回の訪問につき、5～6時間程度の作業を行う予定である。

ガイドツアー・市民講座の開催

- 観光活用における貢献を目指して、ガイドツアーと市民講座を実施する予定である。

国外での史資料調査

- 2025年夏に、主にドイツにおいて史資料調査を実施する計画である。主に日本に居住していたドイツ人に関する史資料を収集することを目的とする。

6. 研究成果

①神戸ユニオン教会での史資料整理・調査・学術シンポジウム

- (A) 神戸の欧米系コミュニティに関する歴史研究の進展
- (B) 神戸ユニオン教会の史料群の利用可能性向上
- (C) 神戸ユニオン教会の史料群の研究分析の深化

②ガイドツアー・市民講座

- 本事業の研究成果の発信方法として非常に大きな役割を担った。ガイドツアーについては、建築史家の川島智生先生（神戸情報大学院大学客員教授）にガイドをお願いし、2025年6月28日と2026年2月28日～3月1日の二度にわたって実施した。またガイドツアーと並行して、3月1日に市民公開講座を開催し、本事業の概要とその成果について広く市民に広報した。（個別の発表題目については実績報告書参照）

③ドイツでの史資料調査

- 2025年夏に、主にドイツにて神戸ユニオン教会と神戸の欧米系コミュニティに関する史料群の収集とフィールドワークを実施した。調査対象の史資料は、神戸ユニオン教会の史料と突き合わせることでより複眼的な歴史把握を可能にする資料群である。この史資料調査により、本事業の学術的可能性が大きく押し上げられた。

- Generalkonsulat der Bundesrepublik Deutschland Osaka-Kobe, *Hundert Jahre Deutsches Konsulat Kobe 1874-1974*, Generalkonsulat der Bundesrepublik Deutschland Osaka-Kobe, 1974.
- Gemeindegemeinderat, *Jubiläumsfestschrift 100 Jahre*, Tokyo: Evangelische Gemeinde Deutscher Sprache Tokyo-Yokohama, 1985.
- 石田勇治・佐藤公紀・柳原伸洋・宮崎麻子・木村洋平（編）『ドイツ文化事典』丸善出版。
- 茂義樹『明治初期神戸伝道とD. C. グリーン』新教出版社、1986年。
- 新修神戸市史編集委員会編『新修神戸市史 生活文化編』神戸市、2019年。
- 中村綾乃『東京のハーケンクロイツ』白水社、2010年。
- 日本におけるドイツ宣教史研究会編『日本におけるドイツ——ドイツ宣教史百二十五年』新教出版社、2010年。
- 林祐一郎「ドイツ系プロテスタント教会による日本伝道と関西—普及福音新教伝道会の宣教師エミール・シラーを中心に—」『フェネストラ—京大西洋史学報—』第7号、2023年、35-43頁。